



IIXIL ラシッサUD 上吊方式 片引戸 / 引違い戸 取付け説明書

●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

▲注意 …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意

- 本体脱落のおそれがあるため、下記事項をお守りください。
 - ・取付けた後に、必ず吊車レバーが下がっていることを確認してください。
 - ・枠を固定するまぐさ、柱などの下地材は硬木としてください。
 - ・躯体が軽量鉄骨(ランナー・スタッド)の場合は躯体固定ねじが効かないため、開口補強材もしくは木枠(厚み45mm以上)をまわしてください。
 - ・下地材が開口補強材の場合、ドリルねじ(NC140以下は枠同梱)を使用して枠を固定してください。
 - ・ねじは指定のものを指定本数使用して固定してください。

■取付け上のお願い

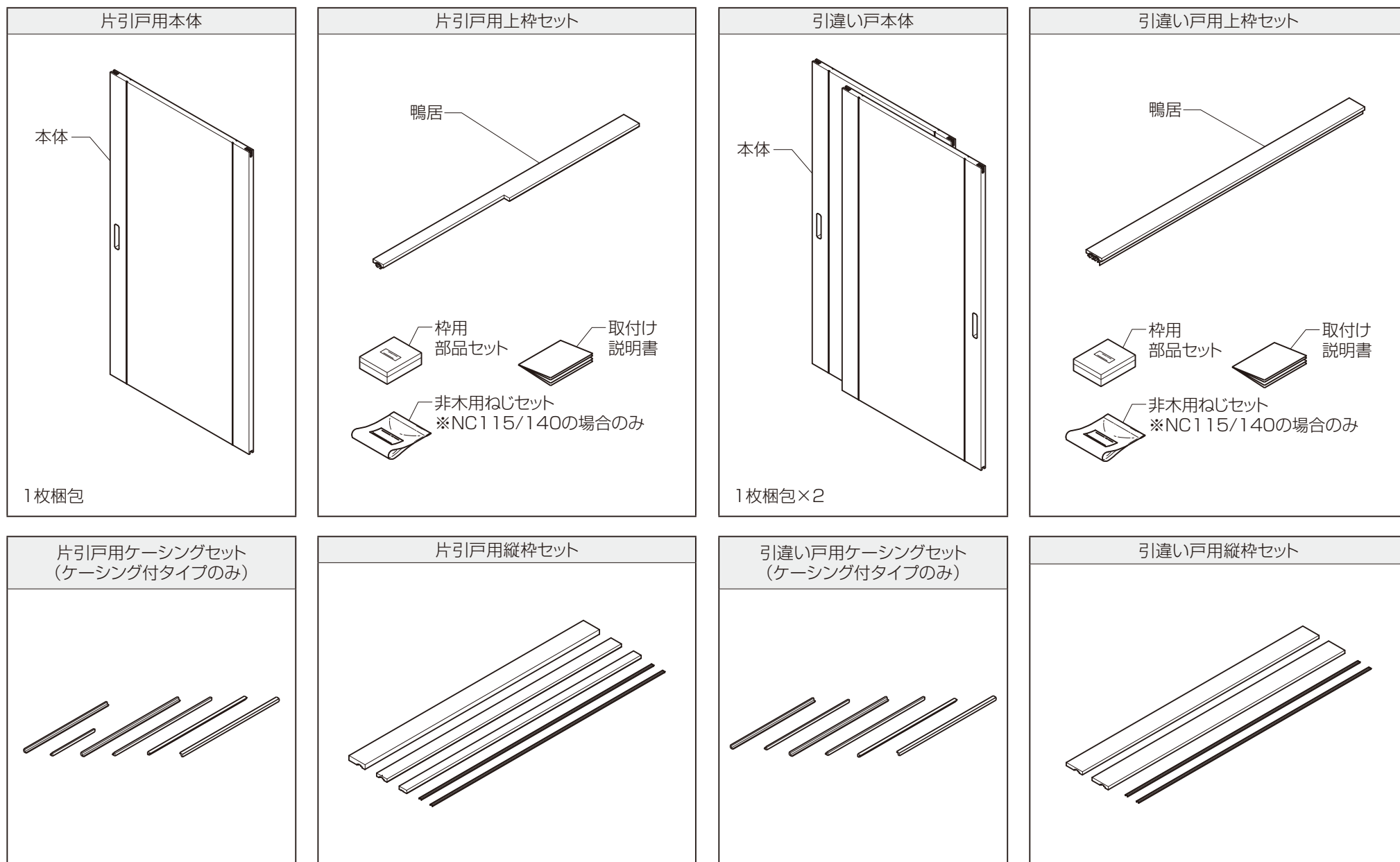
- 納品時に各部材・部品を検品してください。万一製品に不具合があった場合は、必ず取付け前にお買い求め店までご連絡ください。(施工後の色調・不具合・キズなどによる交換はできません。)
- 運搬・加工の際は、キズ付かないように取扱ってください。また、水・直射日光のあたる場所に開梱状態で置かないでください。ソリ・ねじれの原因になります。
- 建具枠をコンクリートやモルタル(床面)に直付けする場合は、建具枠木口と床面の間に、必ず防水処理をしてください。
- 枠は取付け前に開梱した状態で現場に置かないようにしてください。現場の粉塵が上レールや吊車に付着し、作動不良の原因になります。
- 本製品の組立て・取付け時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、枠の垂下がり・ゆがみなどの原因となります。(本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます。)
- 本体は落下させたり、立てかける時に衝撃を与えないでください。本体部品が損傷し、開閉に支障をきたす原因になります。
- 別梱のバーハンドルセット内に同梱されている「戸当たり」「戸当たり受け」は本製品には不要ですので、取付けしないでください。
- 製品取付けの際の建具養生時に表面シートにテープ(ガムテープ、養生テープ、マスキングテープなど)を直貼りしないでください。テープをはがす際、表面シートを傷めたり、テープの粘着剤が表面シートに付着したまま残ることがあります。
- クッションフロアや弾性がある床に施工する場合は、必ず固定ガイドピンの下に合板などの下地材を入れてください。開閉に支障をきたす原因になります。

■本体保管上のお願い

- 本体のソリ・ねじれ防止のため、下記場所に置いたり、保管しないでください。
 - ・直射日光の当たる場所・昼夜などで温度差の激しい場所・湿気の多い場所
 - 本体を長期間保管する場合は、寝かせた状態で保管してください。立て置きでの保管はソリ・ねじれなどの原因になります。
- ※建築工事中は、本体を養生・保全のため取外しておき、取付け完了後に吊込むことをおすすめします。

■部品・部材の明細

※枠はロックダウン、本体は完成品です。



■上枠セット

名称	入数	
	片引戸	引違い戸
鴨居	1	1
枠用部品セット	1	1
取付け説明書	1	1
非木用ねじセット ※NC115/140の場合のみ	1	1

■枠用部品セット(上枠セット同梱)

名称	入数	
	片引戸	引違い戸
枠組立用皿小ねじM4×60	4	4
鴨居取付け用トラスタッピンねじφ4×50	8	10
縦枠取付け用皿木ねじφ3.8×50	6	6
吊車(ソフトモーション付)	1	2
吊車	1	2
ソフトモーション受け金具	2	4
ソフトモーション受け金具取付け用低頭2条ねじφ4×50	4	8
穴埋めシール ※片引戸の場合のみ	1	—
固定ガイドピン	1	2
ガイドピン固定用皿タッピンねじφ3.5×20	2	4

■縦枠セット

名称	入数	
	片引戸	引違い戸
縦枠	1	2
中縦枠	1	—
小縦枠	1	—
戸当たり	2	2

■非木用ねじセット ※NC140のみ同梱

名称	入数
鴨居取付け用トラスドリルねじφ4×35	10
ソフトモーション受け金具取付け用低頭ドリルねじφ4×35	8
縦枠取付け用なべドリルねじφ4×50	15

■ケーシングセット

名称	入数	
	片引戸	引違い戸
縦部材	4	4
横部材	2	2

■両側バーハンドル(別売り)

名称	入数
バーハンドル・オス	4
バーハンドル・メス	2
皿小ねじM5×30	2
取付け説明書	1
★戸当たり	1
★戸当たり受け	1
★戸当たり固定ねじ	1

※★の部品は本製品では使用しません。

■プッシュ錠(別売り)

名称	入数
プッシュ錠本体	1
錠座カバー ※シリンダー錠のみ	1
皿タッピンねじφ3.5×16 ※シリンダー錠のみ	2
カギ ※シリンダー錠のみ	3
取付け説明書	1

■小壁用幅木(別売り) ※片引戸の場合のみ

名称	入数
小壁用幅木L1300	2

■中縦枠付けガイドピン(別売り) ※片引戸の場合のみ

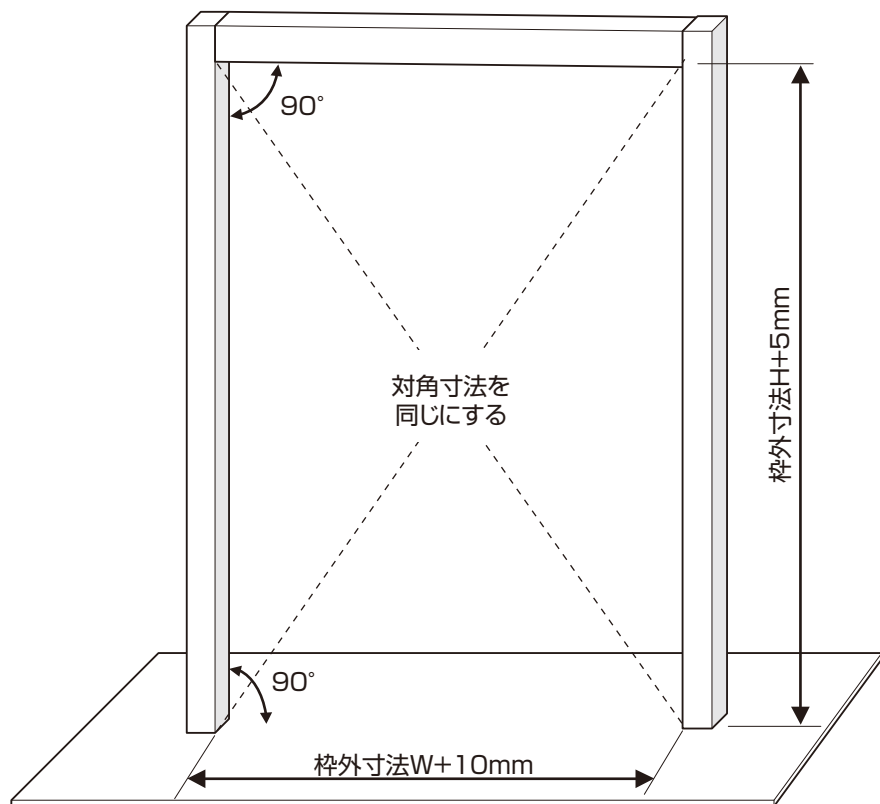
名称	入数
中縦枠ガイドピン	1
皿タッピンねじφ4×20	2
取付け説明書	1

■本体ストッパー ※引違い戸の場合のみ

名称	入数
本体ストッパー	1
皿タッピンねじφ4×25	3
取付け説明書	1
★皿タッピンねじφ4×40	3
★皿タッピンねじφ4×60	3
★コンクリートプラグ	3

※★の部品は本製品では使用しません。

開口部の作り方



▲ 注意

- 本体脱落のおそれがあるため、下記事項をお守りください。
 - ・ 枠を固定するまぐさ、柱などの下地材は硬木としてください。
 - ・ 躯体が軽量鉄骨(ランナー・スタッド)の場合は躯体固定ねじが効かないため、開口補強材もしくは木枠(厚み45mm以上)をまわしてください。
 - ・ 下地材が開口補強材の場合、ドリルねじ(NC140以下は枠同梱)を使用して枠を固定してください。

● 施工上のお願い

- ※ 柱、床、まぐさの水平、垂直を出してください。
- ※ 壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理してから取付けてください。
- ※ 建具枠と柱・間柱・まぐさの間には必ずすき間をつくり、かい木を入れてください。
- ※ 建具枠の下地材には、合板などの乾燥材(含水率20%以下)を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- ※ 本体重量は1枚あたり最大40kgとなります。本製品は上吊方式を採用しているため、必ず構造計算の上、梁(まぐさ)に強度を持たせてください。強度が不足している場合、上枠および、レールの垂下がりの原因となります。
- ※ クッションフロアや弾性がある床に施工する場合は、必ず本体ストッパーの下に合板などの下地材を入れてください。開閉に支障をきたす原因となります。

ノンケーシング	見込み	対応壁厚
	NC115	76~100
	NC140	101~115
	NC156	116~130
	NC171	131~145
	NC180	146~160

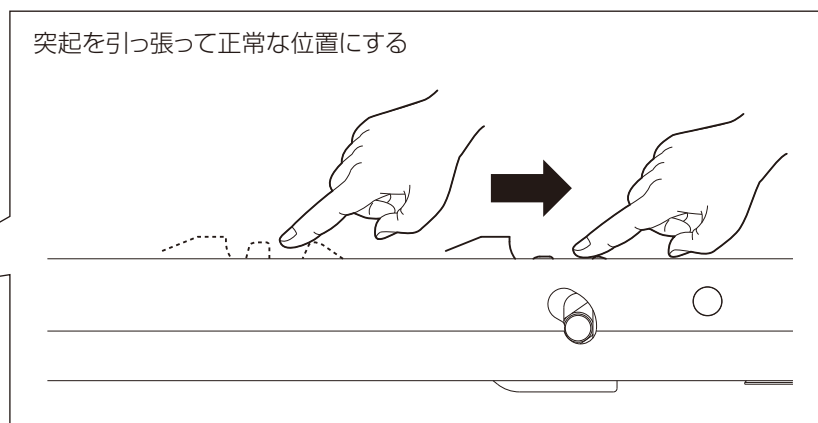
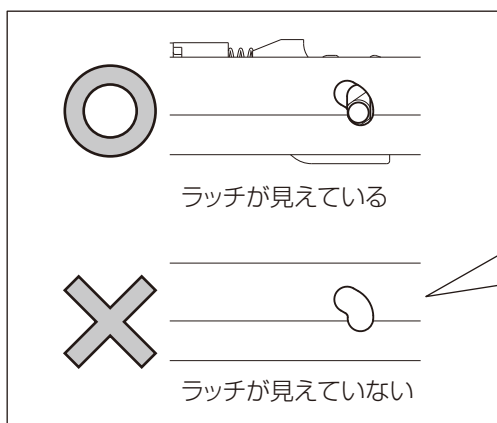
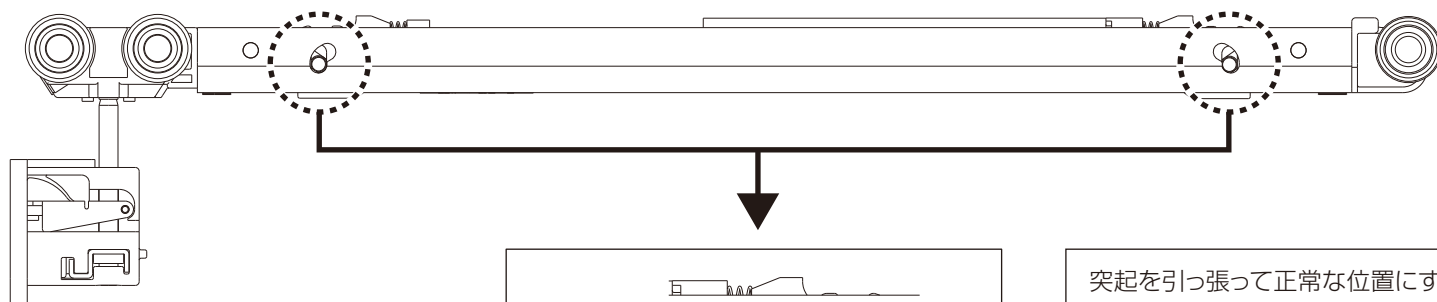
(単位: mm)

ケーシング付	見込み	足長さ	対応壁厚
	薄壁	8	111~121
		14	122~133
		19	134~141
		25	142~152
	厚壁	8	142~148
		14	149~160
		19	161~170
25		171~182	

(単位: mm)

取付け順序

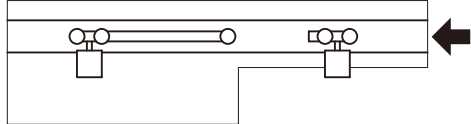
取付け前に、必ず吊車(ソフトモーション付)の状態を確認してください。



1 部品の取付けと枠の組立て

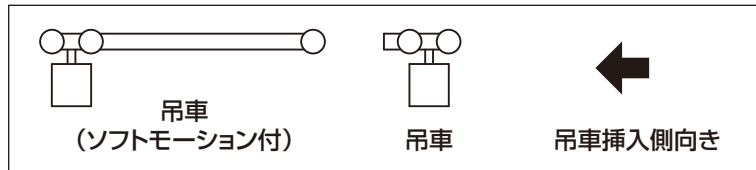
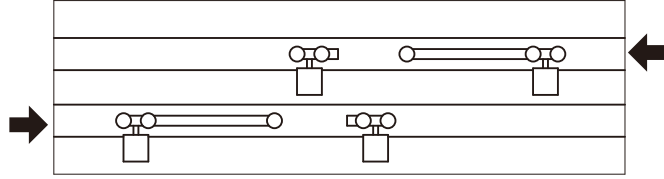
① 鴨居に吊車を挿入してください。

<片引戸>



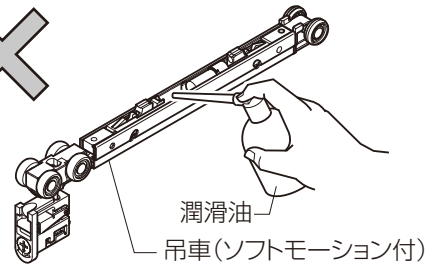
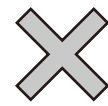
※図は左勝手の場合を示し、右勝手の場合は本図と対称となります。

<引違戸>



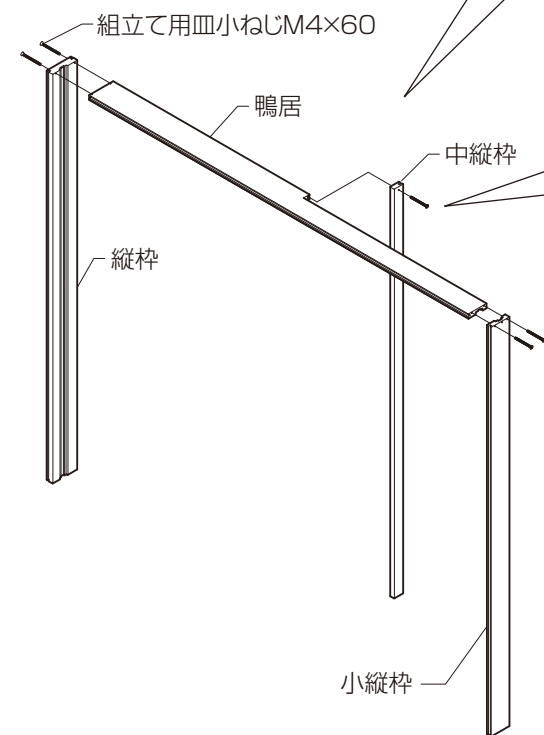
お願い

※吊車（ソフトモーション付）に潤滑油などを塗布しないでください。動作不良の原因になります。

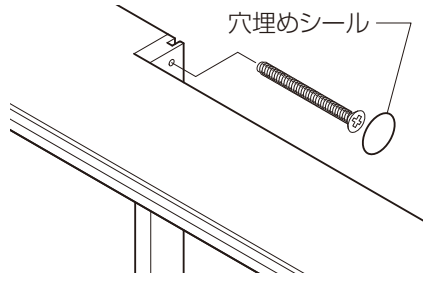


② 鴨居と縦枠を組み立ててください。

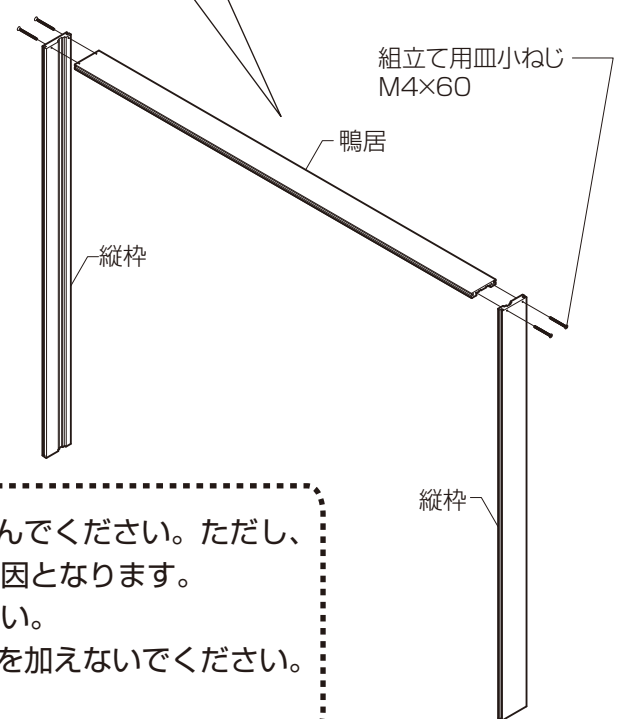
<片引戸>



組立後、組立ねじ部に穴埋めシールを貼り付けてください。
※片引戸NC115の場合のみ



<引違戸>

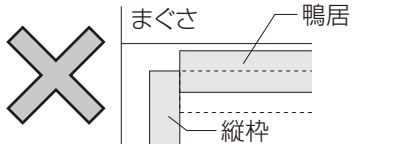
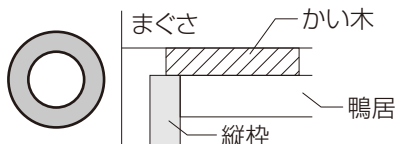
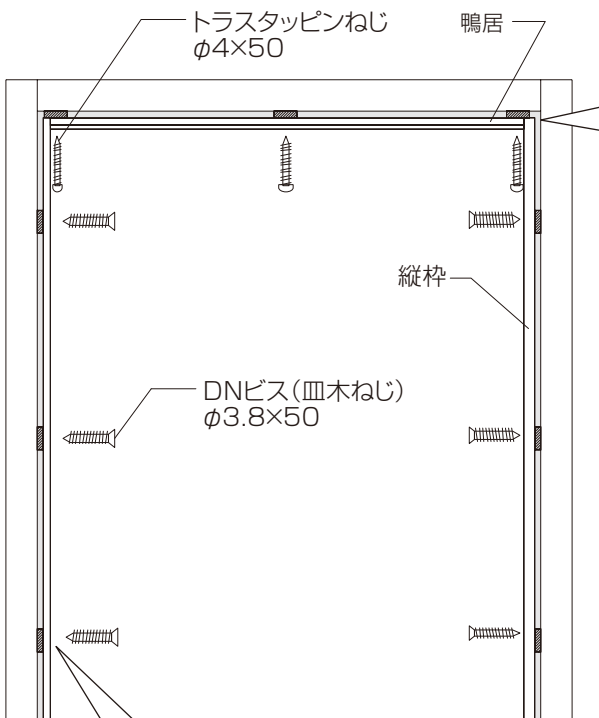


お願い

※組立てねじは、縦枠とねじ頭が面一になるまで締め込んでください。ただし、たたきこまないようにしてください。保持力低下の原因となります。
※各部材のガイド穴にゴミが入らないようにしてください。
※枠の組立て後、揺らす・ねじれ・引っ張りなど無理な力を加えないでください。破損の原因になります。

2 枠の取付け

● 鴨居はトラスタッピンねじφ4×50で、縦枠はDNビス(皿木ねじ)φ3.8×50で固定してください。



鴨居が持ち上がらないように枠接合部にかい木を入れます。

取付け上のおお願い

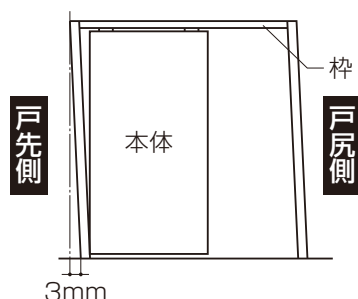
※組立後の移動は必ず2名以上で行ってください
※建具枠を取付ける時は、必ず接着剤(現場手配)を併用してください。
かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤(現場手配)を塗布してください。
※かい木には、合板などの乾燥材(含水率20%以下)を使用し、湿潤材は使用しないでください。
※現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」またはノンホルムタイプを使用してください。
※梁またはまぐさが軽量鉄骨の場合は、ねじ保持力が弱いので直接固定しないでください。
必ず枠と軽量鉄骨の間に木枠を入れて取付けてください。
※鴨居取付けねじの締めすぎにご注意ください。
上レールを変形させると本体の動きが悪くなる場合があります。
本体吊込み時に動きが悪い場合は、ねじをゆるめてください。

取付け精度の許容範囲

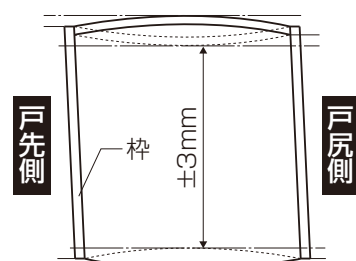
※横方向の倒れ・奥行き方向のねじれ・枠のタイコ・ツツミが3mm以内になるように取付けてください。以下の原因となります。

・引戸が吊込めない ・ソフトモーション機構の作動不良

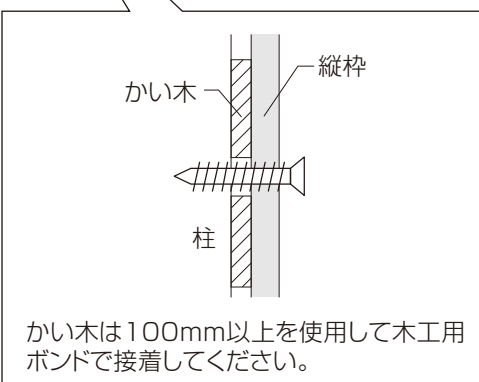
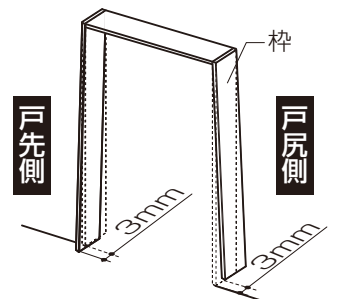
●横方向の倒れ



●枠のタイコ・ツツミ

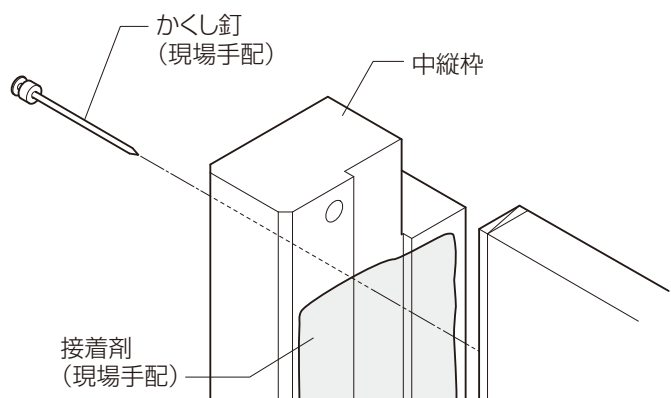


●奥行き方向のねじれ



かい木は100mm以上を使用して木工用ボンドで接着してください。

②中縦枠を下図のように同梱のねじで固定してください。※片引戸の場合のみ



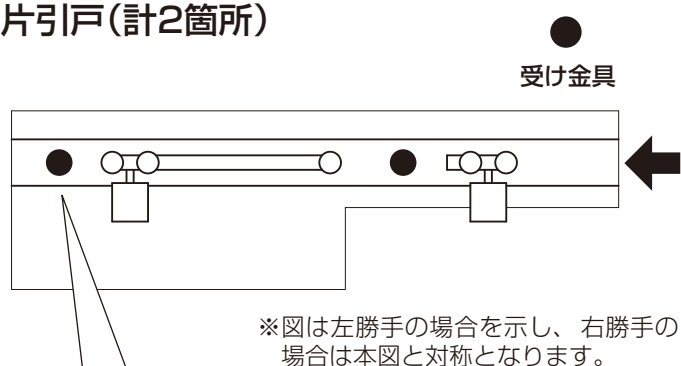
3 受け金具の取付け

レールに貼付けられている受け金具取付箇所ラベルを目印にして、下図のように同梱のねじで固定してください。

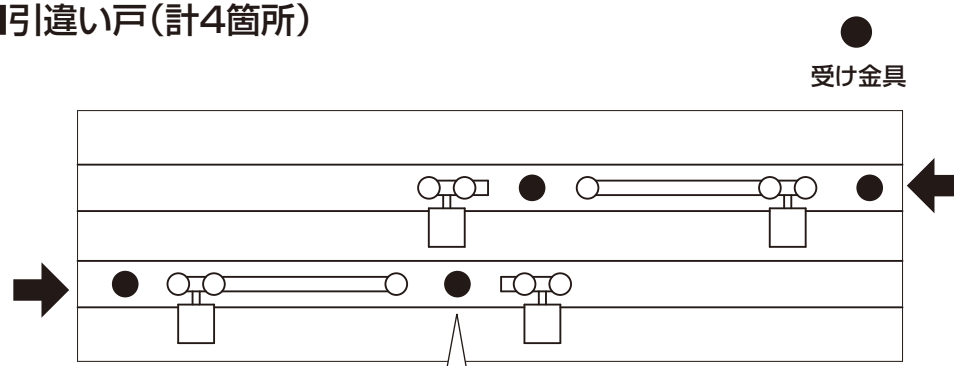
受け金具取付箇所ラベル



■片引戸(計2箇所)



■引違い戸(計4箇所)

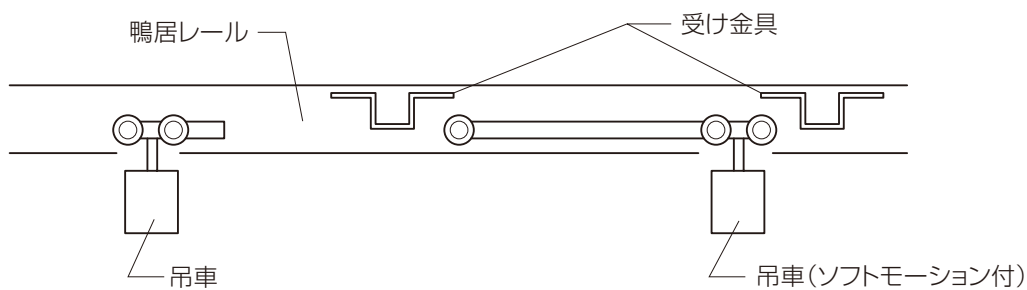


▲ 注意

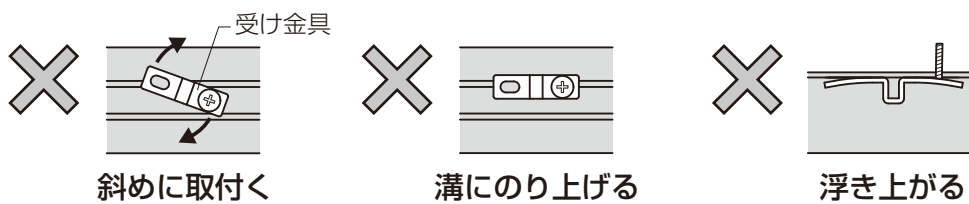
●下地材が開口補強材の場合、ドリルねじ(NC140以下は枠同梱)を使用して枠を固定してください。

お願い

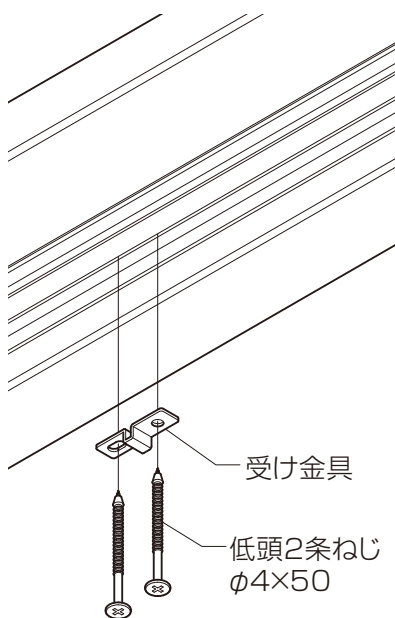
※吊車(ソフトモーション付)は2個の受け金具の間に来るように配置してください。



※完全に固定されるまで、鴨居レールにしっかりと固定してください。ソフトモーションの作動不良の原因になります。



※受け金具取付後に必ずレール内を清掃してください。作動不良の原因になります。



4 ガイドピンの取付け

① 固定ガイドピンの取付け

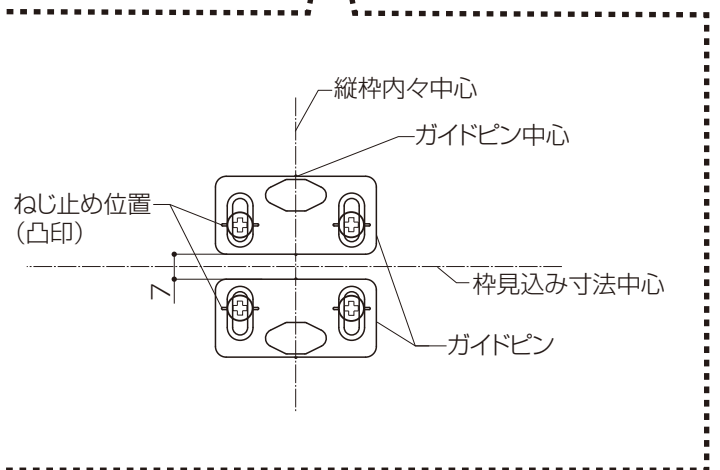
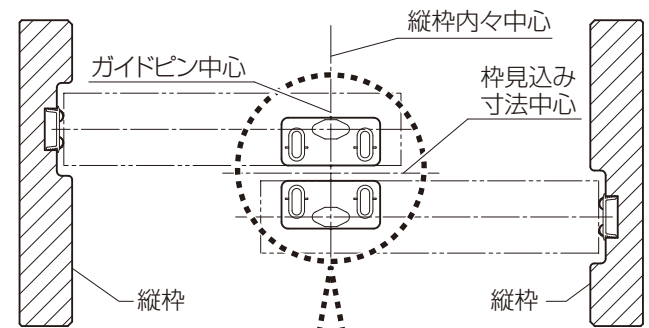
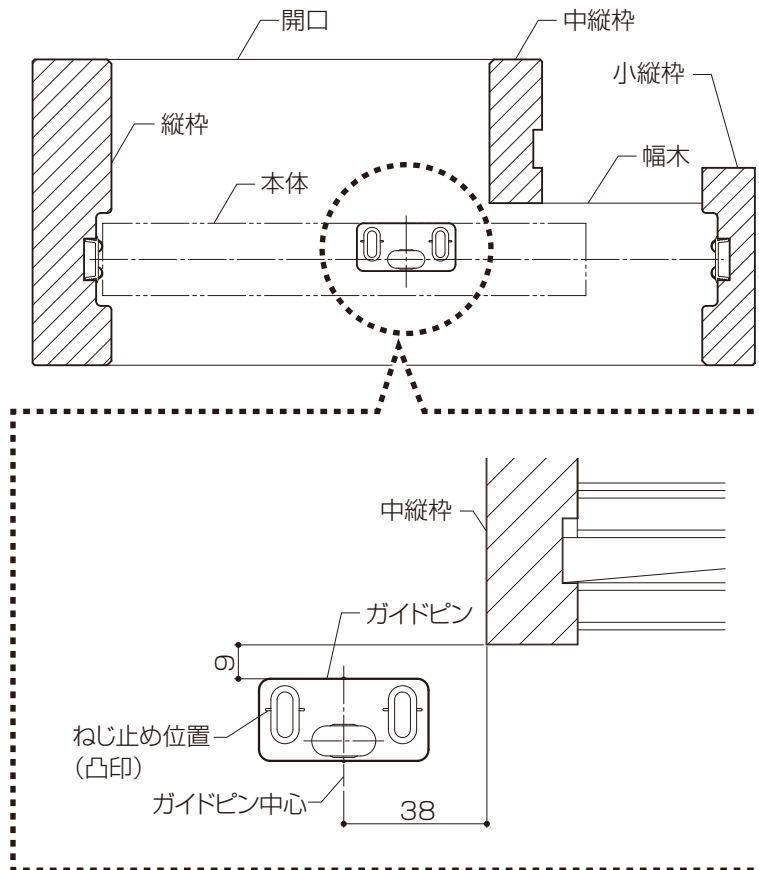
下図の位置および向きにガイドピンを置き、ガイドピンの長穴(2ヶ所)の凸印(ライン)の位置にねじ止めしてください。

お願い

※コンクリート下地に取付ける場合は、同梱のコンクリートプラグを使用してください。(下穴φ6×25以上)

<片引戸> ※図は、左勝手を示します。右勝手の場合は、図と左右対称の位置となります。

<引違戸>



② 中縦枠付けガイドピンの取付け ※片引戸の場合のみ
部品に同梱の取付け説明書をご覧ください。

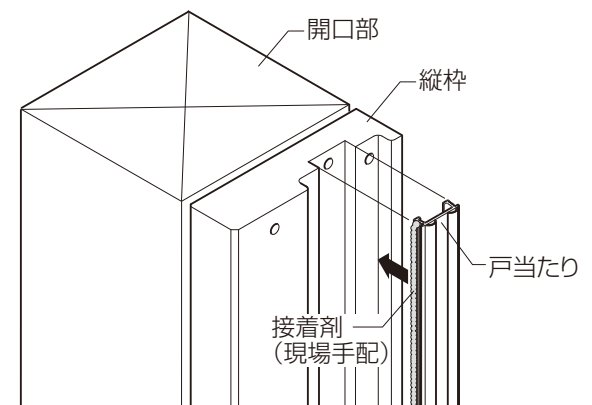
5 戸当たりの取付け

① 戸当たりを現場の寸法に合わせて切断してください。

② 戸当たりに接着剤(現場手配)をつけて縦枠に取付けてください。

お願い

※現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」またはノンホルムタイプを使用してください。



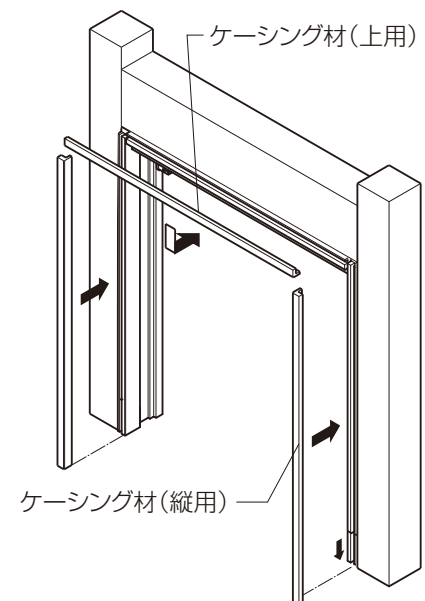
6 ケーシングの取付け(ケーシング納まりの場合のみ)

① ケーシング材を現場の寸法に合わせて切断してください。

② ケーシング溝とケーシング材裏面に接着剤(現地手配)を塗布し、ケーシングを固定します。

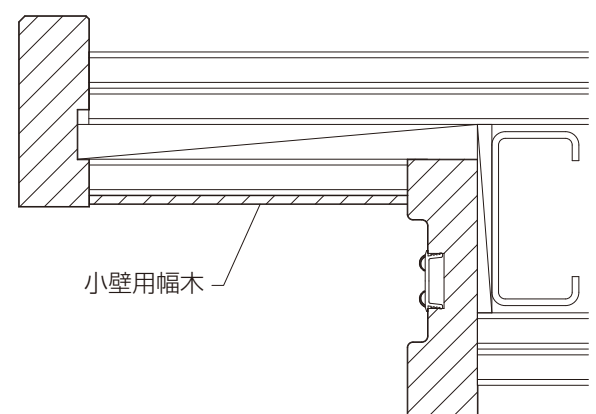
お願い

※現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」またはノンホルムタイプを使用してください。

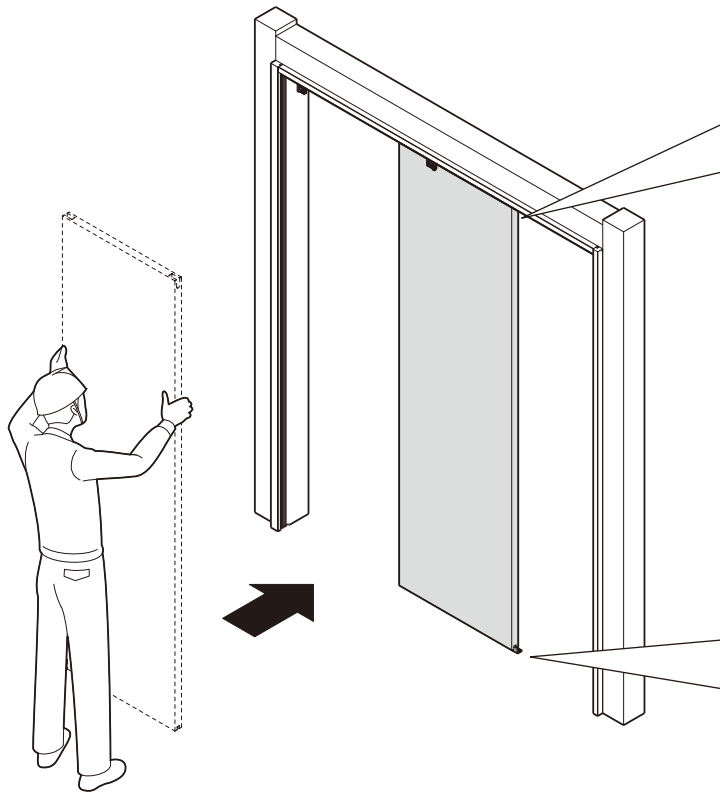


7 小壁用幅木の取付け(別売り)

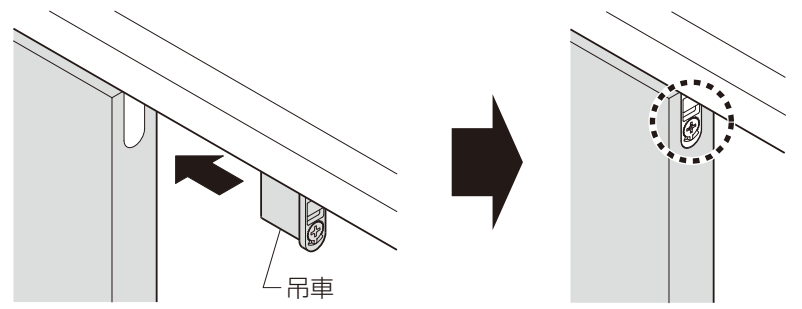
幅木部材の裏面にまんべんなく接着剤(現場手配)を塗布し、専用のかくし釘で固定します。
かくし釘のピッチは、200~300mmです。



8 本体の吊込み

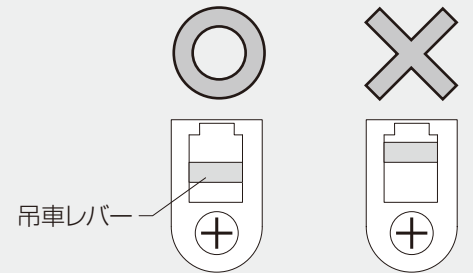


②下図のように吊車を本体に取り付けてください。

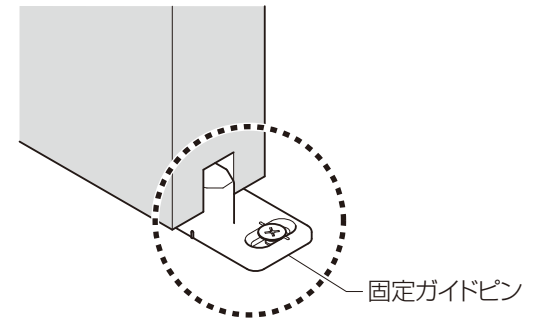


▲ 注意

●取付けた後に、必ず吊車レバーが下がっていることを確認してください。本体脱落のおそれがあります。



①固定ガイドピンに本体の下部溝を入れてください。



9 バーハンドルの取付け

バーハンドルの取付けについては、別梱のバーハンドルセットに同梱の取付け説明書をご覧ください。また、バーハンドルに同梱の戸当たりは使用しません。

10 錠の取付け

錠の取付けについては、錠セットに同梱の取付け説明書をご覧ください。

11 本体ストッパーの取付け

引違い戸の場合のみ、必ず取付けてください。

本体ストッパーの取付けについては、本体ストッパーセットに同梱の取付け説明書をご覧ください。

■ 本体の調整

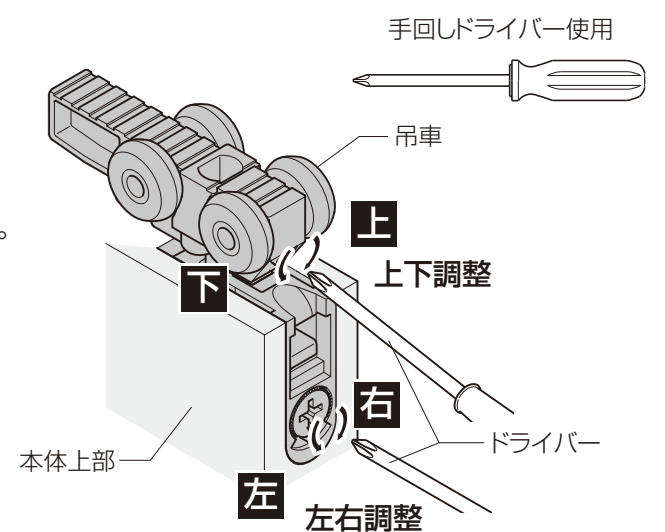
1 本体の上下・左右調整

上下調整(調整幅上4mm、下1mm)

プラスドライバーで、吊車上部の調整ねじを右に回すと本体が上がり、左に回すと本体が下がります。

左右調整(調整幅左右各2mm)

プラスドライバーで、吊車下部の調整ねじを右に回すと本体が右へ動き、左に回すと本体が左に動きます。

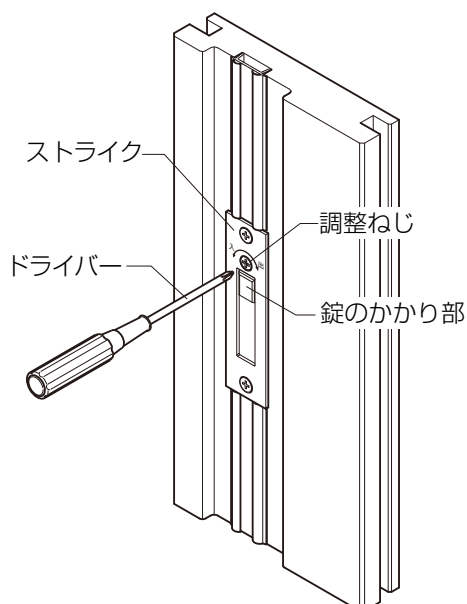


2 引戸錠のかかり調整

ストライクの調整ねじを右に回すと錠のかかり部が出て、左に回すと錠のかかり部が奥に入ります。

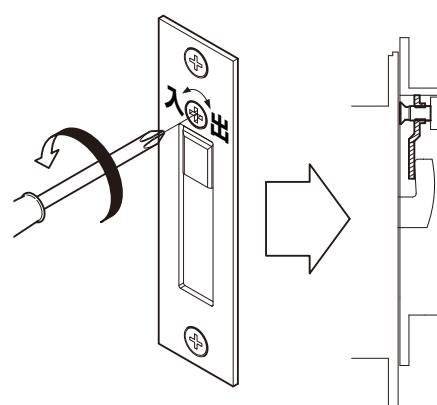
※美和ロックFG3D錠のストライクには、錠のかかり調整機能は付いていません。

調整が必要な場合は本体の上下・左右調整で対応してください。



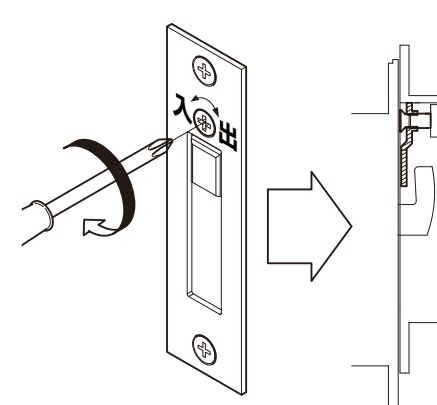
●本体と枠のすき間が大きい場合

調整ねじを左に回して調整してください。



●錠がかかりにくい場合

調整ねじを右に回して調整してください。



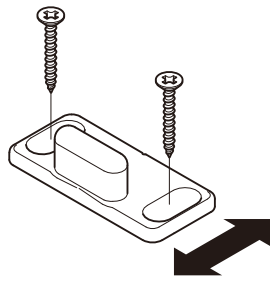
3 ガイドピン位置の調整

●固定ガイドピンの場合

ねじをゆるめて前後に調整して固定してください。

●中縦枠取付けガイドピンの場合

部品に同梱の取付け説明書をご覧ください。

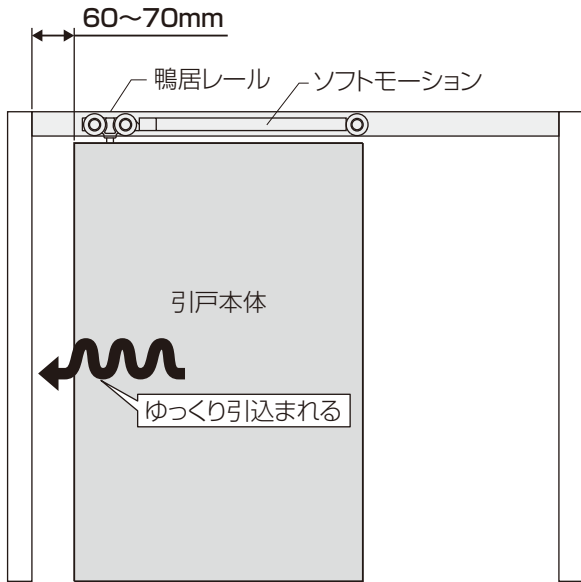


■施工後の確認

●ソフトモーションの動作確認

本体をゆっくり開閉し、全閉または全開状態からおよそ60～70mm手前の位置から本体がゆっくり引き込まれるか確認してください。

※下図は本体を閉める場合を示します。本体を開ける場合も同様に確認してください。



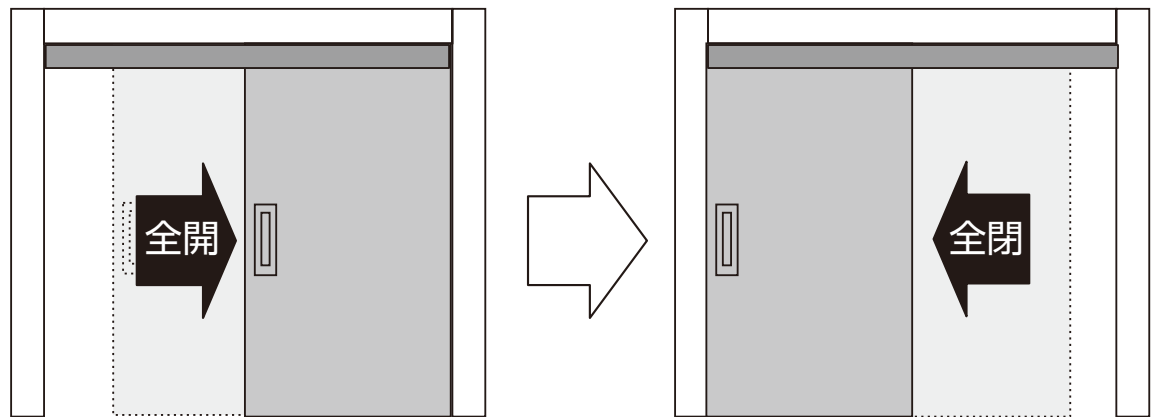
■ソフトモーション機構の自動復帰方法

※本体を吊り込んでソフトモーション機構が作動しない場合は以下の手順を行うことでソフトモーション機構が自動復帰します。

- ①本体を全開してください。
- ②本体を全閉してください。
- ③①、②を1～2回繰り返してください。ソフトモーション機構が復帰します。

※必ず縦枠に当たるまで全開・全閉を行ってください。ソフトモーション機構復帰時に「カチッ」と手応えを感じます。

※ソフトモーション機構復帰後は本体を無理に押し込んだり、引っ張ったりしないでください。作動不良の原因となります。



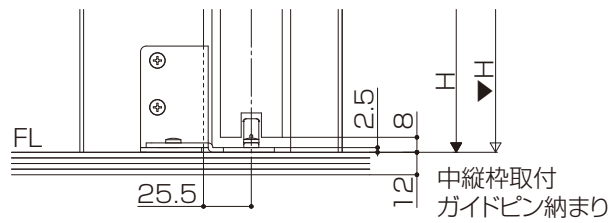
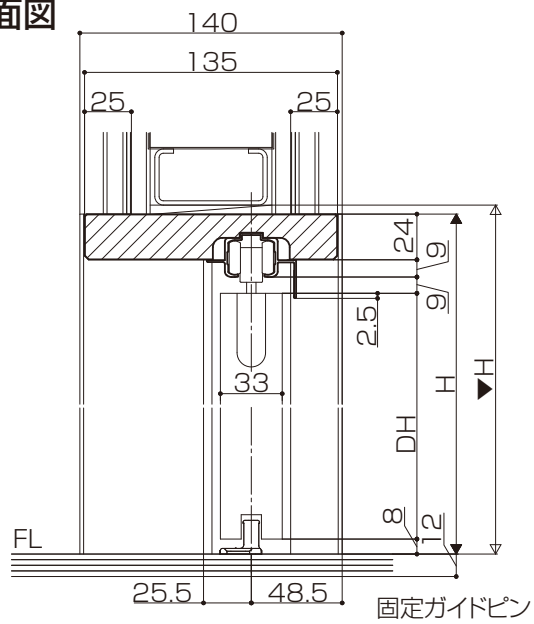
■異常時の対処方法

No.	現象	チェックポイント	対処方法
1	本体が閉まりきらない	枠の取付け精度が許容範囲をオーバーしている <参照> 取付け順序/ 2 枠の取付け手順『取付け精度の許容範囲』	本体を外し、許容範囲となるよう再施工してください。 ●本体の外し方 本体を手で支えてから吊車の操作レバーを指でつまみ、上に押し上げます。 次に吊車を本体の内部ケースより引抜き、取外します。 ※取外しがやりにくい場合は、マイナスドライバーなどを使用して操作レバーを押し上げながら引抜いてください。
2	鍵がかからない/ かかりが甘い (本体と縦枠にすき間が開く)	本体が傾いている	本体の位置を調整してください。 <参照> 本体の調整/1 本体の上下・左右調整
		ストライク調整が不適當	ストライクを調整してください。 <参照> 本体の調整/2 引戸錠のかかり調整
3	本体の開閉が重い	ガイドピンと本体がこすれている	ガイドピンの位置を調整してください。 <参照> 固定ガイドピン：本体の調整/3 ガイドピン位置の調整 中縦枠取付けガイドピン：部品に同梱の取付け説明書
4	ソフトモーションが効かない	吊車(ソフトモーション付)のラッチが上がっている	本体の全開・全閉を1～2回くりかえしてください。 <参照> 施工後の確認/ソフトモーションの動作確認

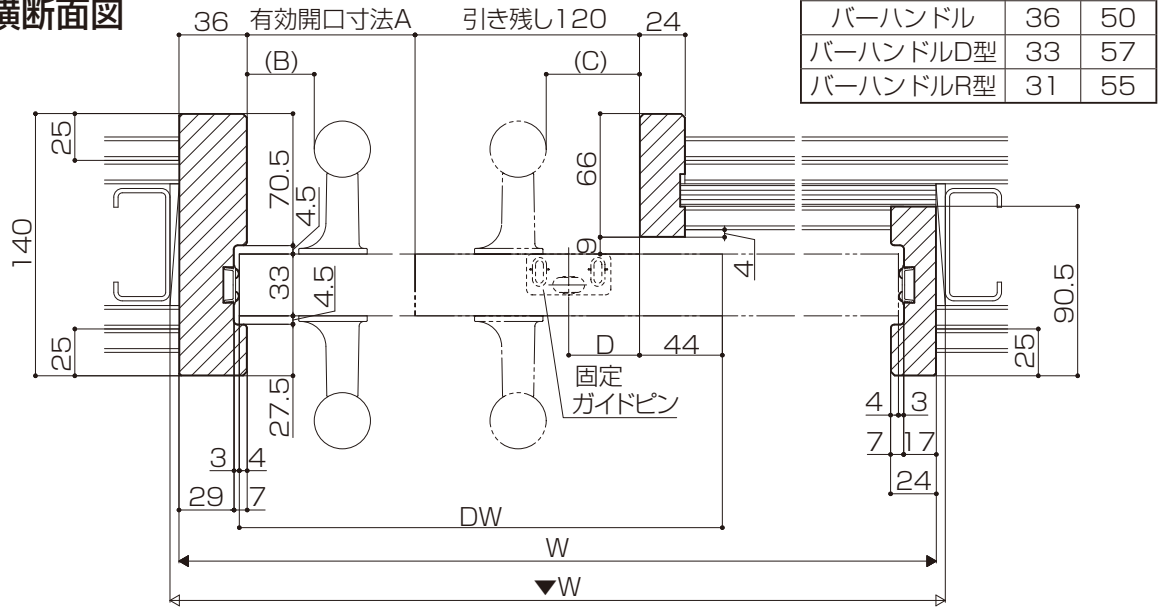
■納まり図

●上吊方式 片引戸 ノンケーシング 見込み140mm

縦断面図



横断面図



	B	C
バーハンドル	36	50
バーハンドルD型	33	57
バーハンドルR型	31	55

有効開口寸法

W呼称(枠外寸法)	A
W20 (2024)	900
W22 (2224)	1000
W26 (2624)	1200

算出式: A寸法 = $(W-224) / 2$
 $DW = (W+112) / 2$

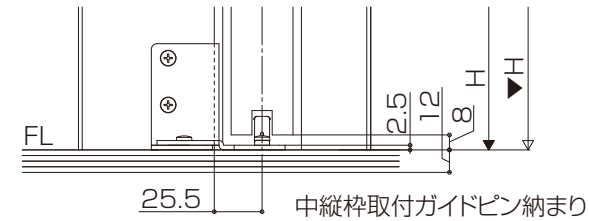
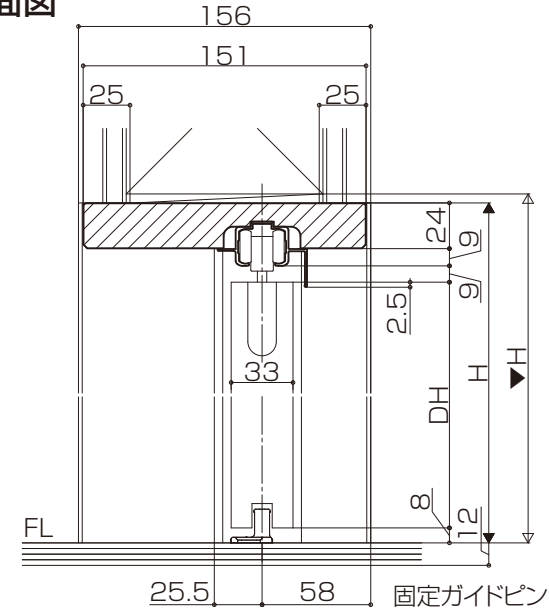
ガイドピン位置

ガイドピン種類	D
固定ガイドピン	38
中縦枠取付けガイドピン	10.5

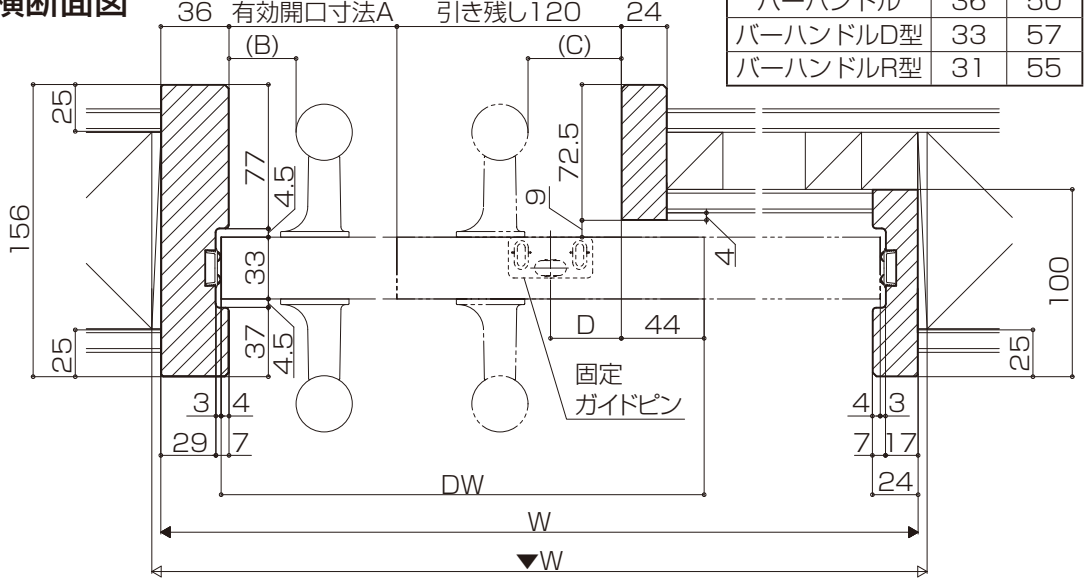
※この図は両側バーハンドルの例です。
 ※この図は固定ガイドピンの例です。

●上吊方式 片引戸 ノンケーシング 見込み156mm

縦断面図



横断面図



	B	C
バーハンドル	36	50
バーハンドルD型	33	57
バーハンドルR型	31	55

有効開口寸法

W呼称(枠外寸法)	A
W20 (2024)	900
W22 (2224)	1000
W26 (2624)	1200

算出式: A寸法 = $(W-224) / 2$
 $DW = (W+112) / 2$

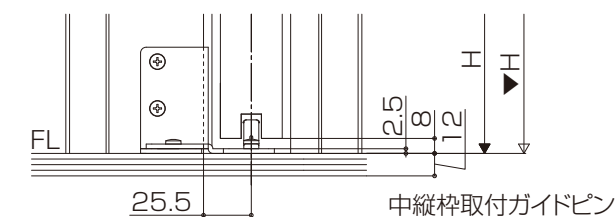
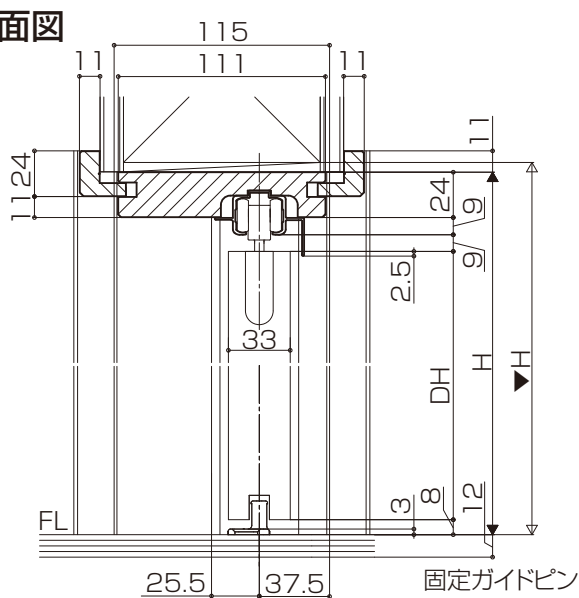
ガイドピン位置

ガイドピン種類	D
固定ガイドピン	38
中縦枠取付けガイドピン	10.5

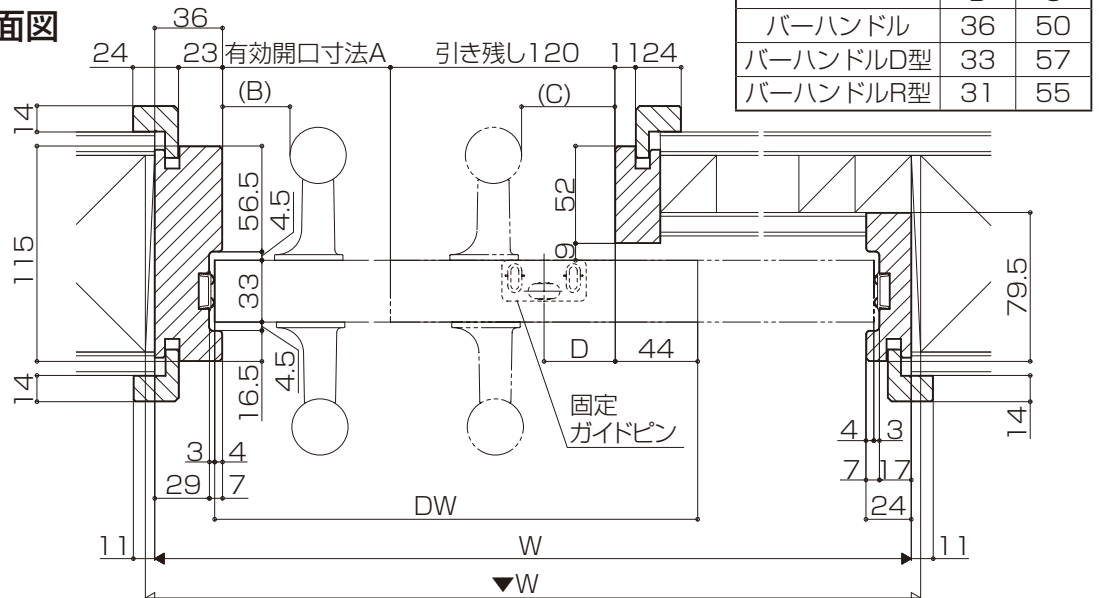
※この図は両側バーハンドルの例です。
 ※この図は固定ガイドピンの例です。

●上吊方式 片引戸 ケーシング付 薄壁

縦断面図



横断面図



	B	C
バーハンドル	36	50
バーハンドルD型	33	57
バーハンドルR型	31	55

有効開口寸法

W呼称(枠外寸法)	A
W20 (2024)	900
W22 (2224)	1000
W26 (2624)	1200

算出式: A寸法 = $(W-224) / 2$
 $DW = (W+112) / 2$

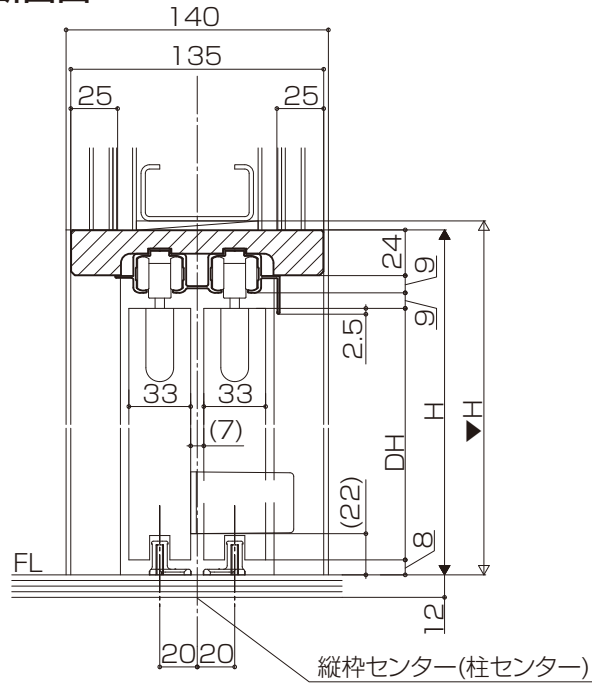
ガイドピン位置

ガイドピン種類	D
固定ガイドピン	38
中縦枠取付けガイドピン	10.5

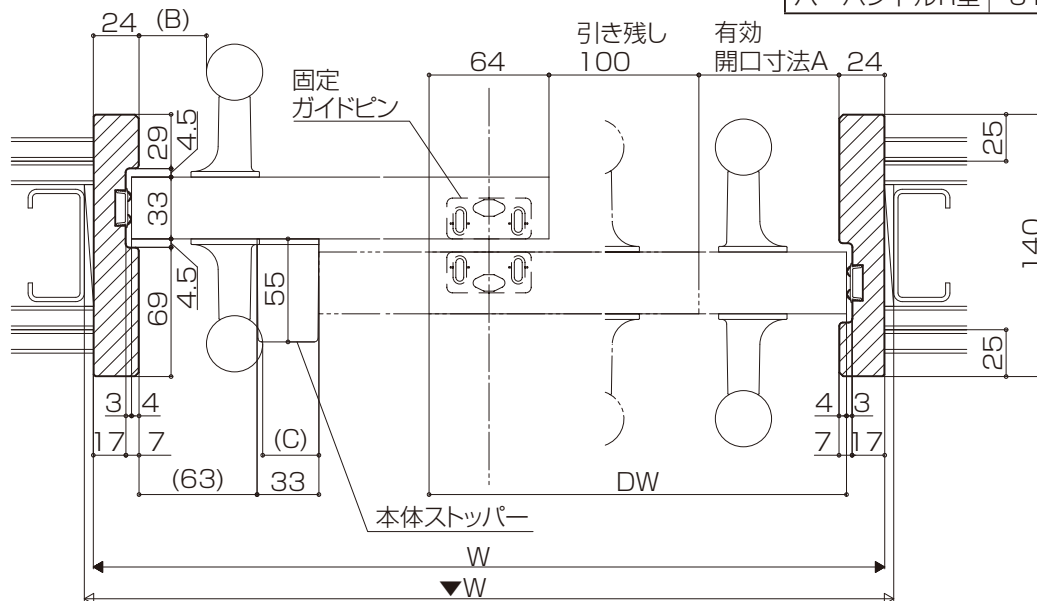
※この図は両側バーハンドルの例です。
 ※この図は固定ガイドピンの例です。

●上吊方式 引違い戸 ノンケーシング 見込み140mm

縦断面図



横断面図



	B	C
バーハンドル	36	30
バーハンドルD型	33	37
バーハンドルR型	31	35

有効開口寸法

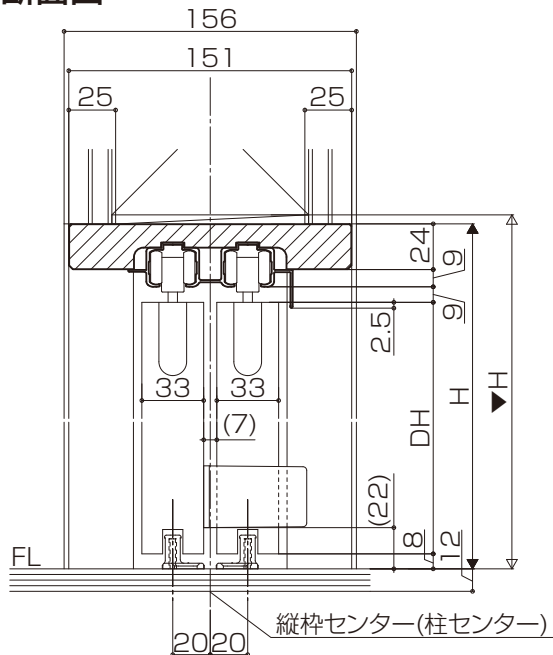
W呼称(枠外寸法)	A
W21 (2112)	900
W23 (2312)	1000
W27 (2712)	1200

算出式: $A \text{寸法} = (W - 312) / 2$
 $DW = (W + 24) / 2$

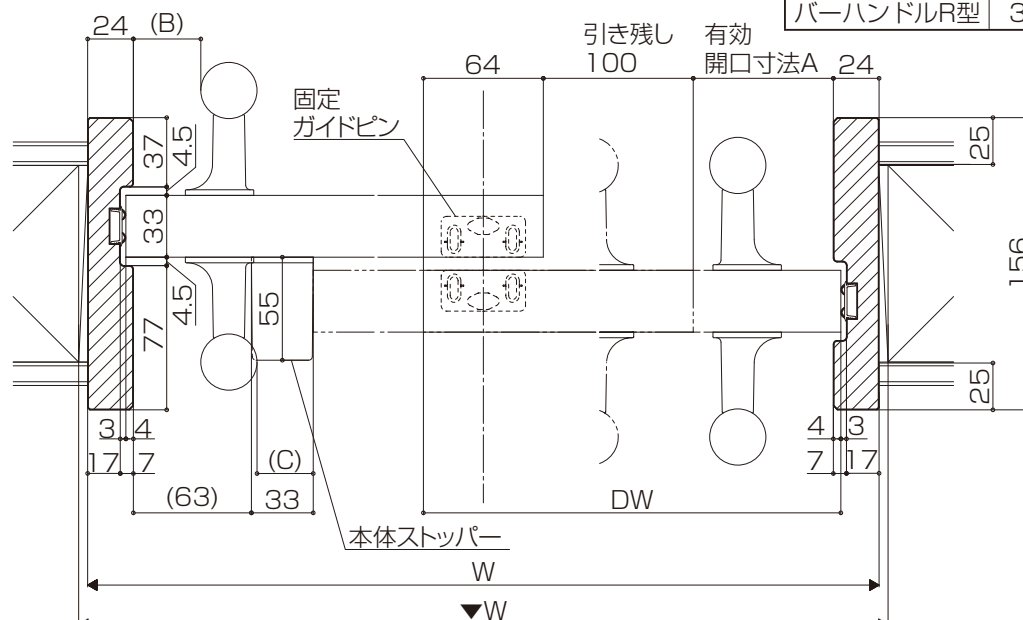
※この図は両側バーハンドルの例です。

●上吊方式 引違い戸 ノンケーシング 見込み156mm

縦断面図



横断面図



	B	C
バーハンドル	36	30
バーハンドルD型	33	37
バーハンドルR型	31	35

有効開口寸法

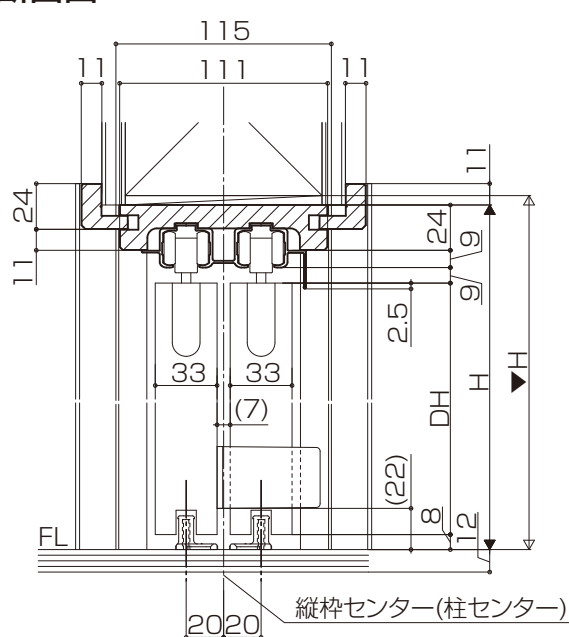
W呼称(枠外寸法)	A
W21 (2112)	900
W23 (2312)	1000
W27 (2712)	1200

算出式: $A \text{寸法} = (W - 312) / 2$
 $DW = (W + 24) / 2$

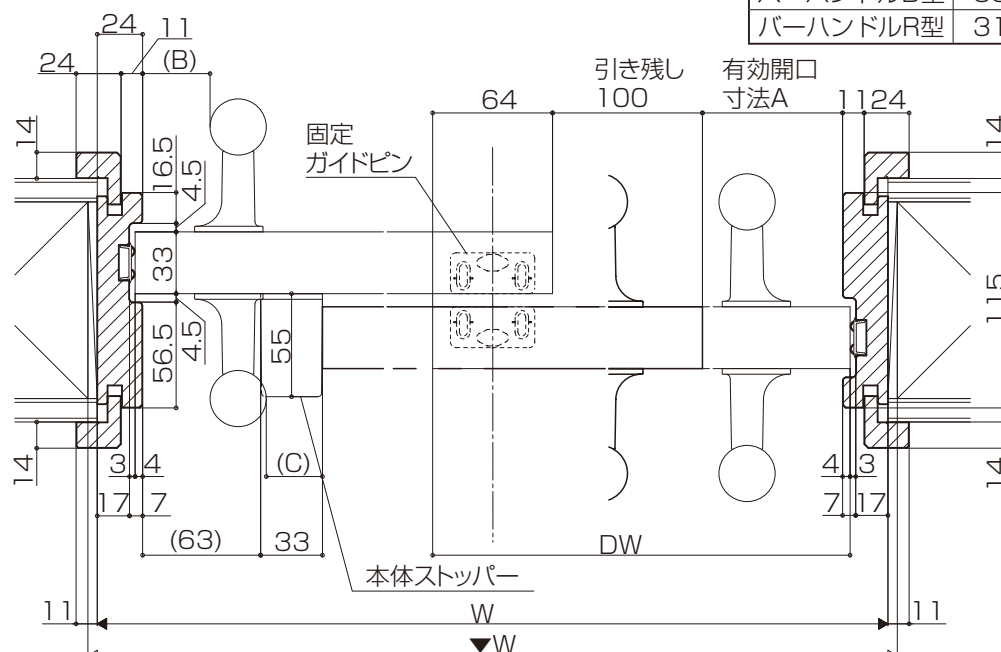
※この図は両側バーハンドルの例です。

●上吊方式 引違い戸 ケーシング付 薄壁

縦断面図



横断面図



	B	C
バーハンドル	36	30
バーハンドルD型	33	37
バーハンドルR型	31	35

有効開口寸法

W呼称(枠外寸法)	A
W21 (2112)	900
W23 (2312)	1000
W27 (2712)	1200

算出式: $A \text{寸法} = (W - 312) / 2$
 $DW = (W + 24) / 2$

※この図は両側バーハンドルの例です。